

〈支援企業を訪問しました〉

上尾セイコー株式会社 殿

「エコアクション 21 環境経営を目指して！」

上尾セイコー株式会社の小高清社長は、親戚が経営していた焼結部品の工場にて勤務していた経験を活かして、1982年に独立を決心、上尾市内で起業しました。1991年に工場を新設し、2001年に領家工業団地内(写真)に移転、2012年には近くに第2工場を新設し現在に至っています。

当社の取扱い製品は、焼結金属の歯車や焼結含油軸受で、主な用途は事務機や音響機器などです。焼結金属とは、金属の粉末を型に入れ高圧で成型、その後加熱して焼き固めたものです。さらに、金属の粉末と粉末の間の空洞に油を浸み込ませると給油を必要としない軸受になります。焼結の特長としては、機械加工に比べ量産性に優れ、コスト競争力が高い点にあります。当社では直径最大 50mm 程度の部品を得意としています。

近年では、携帯音響機器にカセットテープを使わなくなったことに代表されるようにモーター需要が低下してきていることや、材料特に銅・鋼（スウェーデン製）の市況が大きく変動しているなど事業環境は決してよくありませんが、小回り性、価格競争力、短納期対応などの当社の強みを発揮して乗り切ってきました。

最近では、エネルギーコストが高いことが社長の悩みです。そこで小高社長は省エネ診断を受けたいと、上尾ものづくり協同組合を通じてアブセックに支援を要請し、省エネナビゲーターでエコアクション 21 審査人でもある海瀬弘司さんの支援が始まりました。

当社ではこれまでも照明やエアコンの一部は高効率化を進めてきましたが、埼玉県の省エネ診断を昨年受けた結果、今後取り組むべき省エネ対策にも改善の余地は多く、大きいことが分かりました。

海瀬さんは、環境省が進める環境経営システム「エコアクション 21」の認証取得を勧めました。

丁度その頃、環境省の「エコアクション 21 CO₂削減プログラム実証事業（通称エコクリップ）」の募集があり、まずはそれに参加することとして、省エネ診断の結果も参考に、更なるコスト削減のため

の諸施策を推進しました。この事業はCO₂削減に特化した事業で、昨年度より始まり、全国で 300 社に限定された事業です。

さらに、海瀬さんはエコアクション 21 の構築・運用に向けて、環境方針や実施体制、目標、活動計画などの作成支援に携わってきました。その後、5S活動を環境経営活動の基本に採り入れ、エコアクション 21 の受審に向けて準備を進めてきました。この秋には審査の結果が出るので楽しみにしているそうです。

小高社長は、「エコアクション 21 の認証が取得できても、実際の効果が出てくるのはこれから。5Sもこれまで何回も取り組んできたが、なかなか定着しなかった。今後とも海瀬さんには指導をお願いし、環境経営を成功させたい。」と語っておられました。

(野村 記)



小高社長(右)と海瀬さん



ご意見・お問い合わせはこちらまで

上尾商工会議所 桶川市商工会 伊奈町商工会 北本市商工会 鴻巣市商工会
アブセック事務局 TEL 048-773-2391 E-mail abcec@ageocci.or.jp